



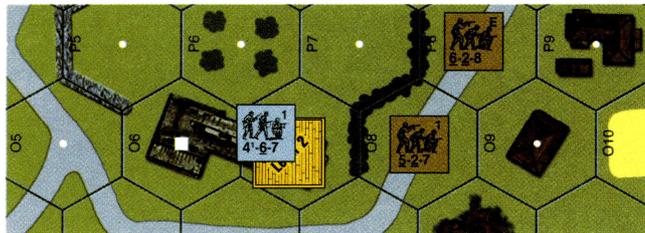
B

を満たせなくなった時点でそのWAを失わなければならないし、他の時点でそのWAが失われる可能性がある。RPhの制限 (A3.1) や隠蔽の喪失 (A12.141) に関して、WAの主張/喪失は行動とみなされない。敵が行動宣言してからその行動が完了するまでの間は、WAの主張/喪失を行う事は絶対にできない。例えばWAを主張しているユニットに対する射撃の間にWAの主張/喪失は不可能である。

9.323 強制的WA (Mandatory WA) : ヘクス内で最低でも+1 TEMを主張できないユニットは、(たとえそれがヘクス内で妨害を有しているとしても) できるだけ早くにWAを主張しなければならない、それを自発的に拒否する事はできない。WAとともに砲の設置、防盾、高度優位性、自軍AFV による防護効果を有しているも、前記の事柄に関してヘクス内のTEMとは見なされない。この場合、ユニットの石垣/生け垣ヘクスサイドのうち1本以上を敵ユニットが占めないかぎり、“石垣の確保”カウンターは必要ない。

9.324 隠蔽: 隠蔽状態のユニット(またはダミースタック)はWAを主張できる。ただし、ダミースタックの場合には、それが占めている石垣/生け垣ヘクスサイド越しにダミーではない敵ユニットがWAを主張してきたならば、それを阻止できない; WAを主張しようとする側の全てが隠蔽状態であった場合には、最初に最低1個はダミー以外のユニットを有していることを証明するために、そのユニットを直ちに明らかにしなければならない。次にその相手側もダミーではないユニットを1個あたりに明かさなければならない、さもなければWAは失われる。隠蔽されているユニットは絶対にWAを主張できないし、それがプレイ中にWAを主張できるようにするためには盤上に(隠蔽状態で)配置しなければならない。ただし、その場合にはいつでもWAを主張することができる。それは、たとえ敵ユニットが移動し隣接してWAを要求した瞬間であっても可能である。

9.33 高度の影響: 非空中の射撃側が、石垣/生け垣に対し、目標ヘクスまでのヘクス単位の距離よりも大きな高度優位性を持っている場合、距離が高度を1 完全レベル上回るごとに、その石垣/生け垣ヘクスサイドのTEMが1 ずつ(最低0 まで)減少する。石垣/生け垣がなければ開路地であるはずのヘクスで、石垣/生け垣のTEMが0 まで減った場合、阻止とFFMOが行えるようになり、HD状態は完全に打ち消される。石垣のTEMが高度の影響によって+1まで減少した場合、HD状態の目標に対する直接射撃命中判定DRの色付きdrに、命中個所の判定に関してのみ、-1 drmを適用する。弾痕、橋、壕のTEMは、射撃側の高度優位性によって、これと同様の方法で減少する。



例: 1207 のレベル2 にいる4-67 は、O8 を射撃する際に生け垣を無視できる。なぜなら、高度レベル2は目標への距離を1 ヘクスを上回っているからである。しかし、4-67 がP8を射撃する場合には、高度レベル2が距離(2ヘクス)を上回ってはいないので、生け垣の+1 TEMを加えなければならない。O7 の第1 レベルにいるユニットがO8を射撃する場合、1/2 レベルよりも1 完全レベル高いわけではなく、またその高度(1レベル)が射撃(1ヘクス)を上回ってはいないので、生け垣の+1 TEMを加えなければならない。P7 において壕の中にあるユニットが存在する場合、そのTEMは、レベル2 にいる4-67 によって攻撃される時には+1 に減じられる。

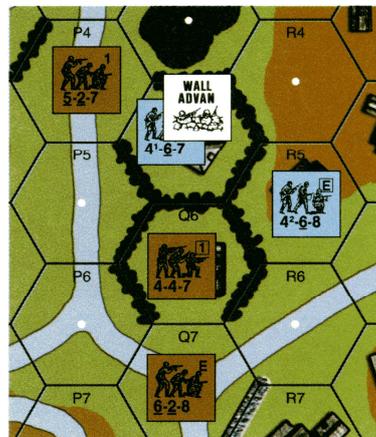
9.34 間接射撃: 間接射撃に対する石垣/生け垣ヘクスサイドのTEMは1低下する。しかし、このTEMはその射撃のLOFがこのヘクスサイドを横切っていない場合でも(そしてWAの有無に関係なく)適用される。目標ヘクスにこのような石垣/生け垣がいくつあっても、このような射撃の解決に対して、石垣/生け垣のTEMは1回だけ適用される。このルールにより生け垣のTEMが0に減少していたとしても、生け垣ヘクスサイドを経てそのヘクスにLOFを引いている追撃砲は、今まで通りにFFMO/阻止を打ち消される。間接射撃に対して目標がHDIになることはない(D4.2)。林ヘクスの中にある場合、空中炸裂(13.3)は適用される。たとえユニットがWAを持っていても、これは適用される(ただし、石垣のTEMが適用可能な場合にはそれと組み合わせてもよい)。

9.35 お互いに基本高度が異なる2つの隣接ヘクスで、その共有ヘクスサイドに沿って石垣/生け垣が存在する場合、その石垣/生け垣の絵と稜線の絵の間に基本高度の低い方の地形が描かれているならば(例えば3U4-V4)、その石垣/生け垣は二つの基本高度のうち低い方に存在することになる。そうでないならば、その石垣/生け垣は丘陵斜面の石垣/生け垣(9.6)となる。目標の区域が石垣/生け垣の基本高度と異なる高度にある場合、その目標区域はその石垣/生け垣からTEMやHD状態を受けられない。

9.36

例: 右の段の最初の例において、41R4 (レベル1) にいる4-47 がいるとする。これへの射撃は、ヘクスサイドQ5-R4 (レベル上の1/2レベル障害物) やヘクスの足P4-R4 の生け垣による影響を受けない。しかし、P4 にいるユニットは、R4 から攻撃された場合、ヘクスの足P4-R4 のために生け垣TEMを主張できる。

例: 41Q5 において WA を持つ 4-67 は、P4 にいる 5-2-7 との間で石垣/生け垣ヘクスサイドを共有している訳ではないので、P4 にいる 5-2-7 の (O4-P4 越しの) WA を否定できない。また、同じ 4-67 は、R4 に敵ユニットがいて R4-R5 に石垣ヘクスサイドがある場合、その敵ユニットの WA を否定できない。4-67 と Q6 の 4-47 はお互いにヘクスサイド Q5-Q6 の生け垣を占めているので、4-67 は Q6 の 4-47 に WA を否定できる (9.321)。R5 にいる 4-6-8 は、生け垣ヘクスサイドよりも高い高度にいるので WA を主張できない (9.35)。WA を主張している 4-67 は、4-47 からの射撃に対しては生け垣の TEM を受けることができるが、5-2-7 からの射撃に対しては生け垣の TEM を受けられない。なぜなら、WA を主張しているユニットはヘクス内の TEM を絶対に受けられないからである。



ソ連軍のPFPhに、5-2-7は (TEMなしでの) 攻撃を宣言した。4-6-7はこの攻撃が解決されるまで、WAを放棄して建物TEMを主張する事はできない。そのようにしてWAを放棄したあとで、4-6-7は、P6とR6からの射撃された場合には建物と生け垣のTEMのどちらかを選ぶことができるが、4-4-7 (現時点でこの4-4-7はWAを持っているものと仮定する) から射撃された場合には、たとえそれがQ5-Q6 の生け垣を通過していても建物のTEMを使用しなければならない。なぜなら、WAを持たないユニットが石垣/生け垣のTEMを使用できるのは、そのヘクスサイドにWAを持っていないユニットから攻撃された時だけ(9.31)だからである。さらに、4-4-7は、石垣/生け垣ヘクスサイドを共有する全ての敵ユニットがWAを放棄した事(9.322)から、ただちにWAを主張できる。4-4-7がWAを主張したあとで混乱状態になるか移動した場合、4-6-7は直ちにWAを主張でき、それはたとえそのプレイヤーターンに放棄したものであっても可能である。

4-67 がWAを保持し、PFPhに生き残ったと仮定する。4-4-7 がP5 に移動した時、4-6-7 は4-4-7 のWAを否定し、TEMなしでFFMOを用いて臨機射撃を行う。なぜなら、そのヘクスサイド越しにWAをもつ射撃側に対して生け垣のTEMは不可だからである。もし4-6-7 がR5 にいる4-6-8 とでFGを組んでこの射撃を行ったならば、生け垣のTEMが適用される(A.5)。

次のドイツ軍のMPHに4-6-8はR5からQ6へ移動し、その区域へ進入した際のMF消費の一部としてWAを主張することもできた(P5 にいる4-4-7 は、いまだにQ5 の4-6-7によってWAを否定されているため、4-6-8 がWAを主張するのができないからである)が、そうしなかった。もし4-4-7 (もしくはQ7にいる6-2-8) が現時点で臨機射撃を行うならば、その攻撃には建物のTEMが適用されることになる。その後でこの4-6-8 は追加MFの消費なしにWAを主張できる(いまだに自身のMPHを終了させていないからである)が、もしWAを主張するならば、4-4-7は生け垣のTEMを適用して(連続)臨機射撃を行えるし、6-2-8の場合にはFFMO付きで(連続)臨機射撃を行える(その区域に進入した時に消費された3MFを規準として、非フェイズプレイヤーの臨機射撃能力を使い尽くしてはならないと仮定する)。4-6-8はWAの主張をAPHまで待つことが出来るが、それより前にQ5にいる4-6-7 が混乱状態になった(もしくはそこを離れた)場合、P5 の4-4-7 はWAを主張しなければならない(9.323)、それ以後は4-6-8 のWAの主張を妨げることになる。

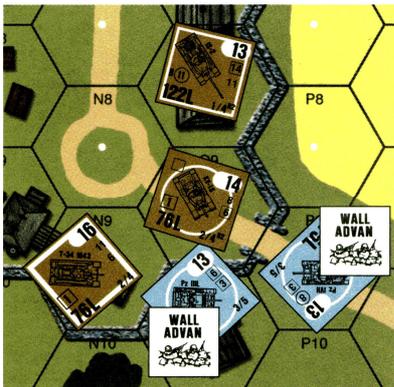


●**9.36 車体遮蔽 (Hull Down) :** 砲兵器の直接射撃に対し、石垣のTEMを受ける車両は、その石垣TEMを適用する代わりに車体遮蔽(HD)状態となる。ただし、ヘクス内TEMを適用可能である場合(9.31)、車両側のプレイヤーはHD状態の代わりにヘクス内TEMの適用を選択することができる。この選択は、攻撃宣言の後、DRの前に行わなければならない。非砲兵器射撃の場合、車両には(PRCではない)通常の石垣TEM(もしくはヘクス内TEM)が適用される。生け垣はHD状態を生じない。

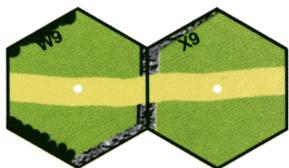


9.36

9.36 の例：43010 内においてO10 /O9 を迂回中のPzIII とPzIV は、3 台のソ連軍AFVすべてに対してWA を持っている。KV-1Sはドイツ軍戦車からの攻撃に対していかなる防御も受けないが、PzIV はO9にいる目標に対して自身のBMG を使用できない (D4.223)。T-34 とIS-2 はどちらもPzIII からの攻撃に対しては建物のTEM を受けるし、PzIV からの攻撃に対しては建物TEM かHD 状態のどちらかを要求できる (ただしどちらも、P9I に対して自身のBMG を使用することはできない。PzIV も同様である)。もしPzIII が代わりにO10/N10 に沿って迂回していたならば、T-34 に対してはWA を持っているが、KV-1S に対してはWA を持っていないことになる (9.32)。その場合、PzIII は今まで通り3 つのソ連軍AFV に対してHD 状態であるが、その時点でKV-1S もまたPzIII に対してHD 状態となるであろう (9.31)。



PzIII が自身のMPH を開始してP9 に進入する。T-34 はヘクス内TEM を受けることができるので、WA を主張することはできない (9.32)。PzIII が (PzIV のおかげで) WA を持つという事実にもかかわらず、PzIII は石垣に開いた間隙を通してKV-1S に対しHD 状態にはなれない。なぜなら、PzIII が移動中だからである (たとえ停止するとしても、移動中と見なされる; C.8)。PzIII がそのVCA をP8/Q9I に変更して、P8I に進入する。そこでPzIII はWA を持つことになる (それゆえに3 つのソ連軍AFV 全てに対してHD 状態と見なされる)。なぜなら、KV-1S は (再びPzIV のおかげで) WA を持つことが出来ず、IS-2 もまた (ヘクス内TEM が+1以上のヘクスを占めているがゆえに) WA を主張できない。もしIS-2 がヘクスサイドO9/O8かP8/O8I に沿って迂回中であつたならば、WA を保持できるので、PzIII のWA を否定することになる。IS-2 がPzIII に対してHD 状態となる一方、KV-1S とPzIII は、それぞれWA を欠くので、お互いにHD 状態となる (そして、それゆえにお互いのヘクス内の目標に対して自身のBMG を使用できなくなる)。

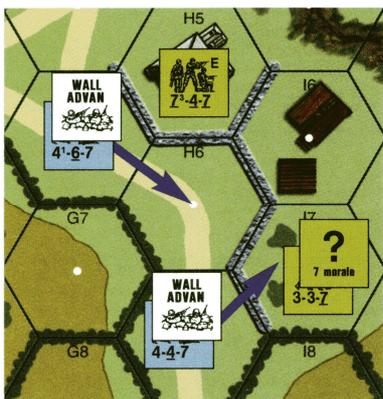


9.4 移動：歩兵/騎兵が石垣/生け垣ヘクスサイドを越える際の移動コストは、進入先ヘクスのCOT プラス1MF である。石垣/生け垣ヘクスサイドを横断する際のもっとも車両タイプに関するコストは、B 章地形表 (Chapter B Terrain Chart) に明記されている。石垣/生け垣を横断する際にボグ判定に失敗した車両は、離れようとしたヘクス内でボグ状態となる。石垣/生け垣ヘクスサイドは、決してCOT として表されず、常にCOT に対する追加として表される。ユニットは稜線を横断する際に通常のMF コストの2倍を消費するので、上記を考慮すれば、そのヘクスの2倍のCOT プラス、ヘクスサイドについての1MF を消費することになる。6W9-X9 のような明確に分断された石垣/生け垣ヘクスサイドは、(その間隙に道路がある場合には道路を使用することで) 石垣/生け垣のMF/MP ペナルティを支払わずに横断できる。

例：9.35 の図を参照。41Q5 からR4 へ移動するには3MF (1+2×1) = 3) かかる。

●9.41 ユニットの新たな区域へ進入しようとした時点で、そのユニットが有していた WA は常に喪失する。現在の区域からの退出に失敗した (例：A12.15、B28.41、E1.53) ユニットの、強制的 WA (9.323) が適用されない限り、その MPH において WA の再主張ができなくなる。

例：ドイツ軍の MPH であり、2 個分隊とも WA を有している。4-6-7 が H6 に進入した瞬間、WA は喪失する。その時点で 7-4-7 は WA を主張することができる。7-4-7 が WA を得た場合、4-6-7 に対して FFMO を適用して (あるいは G6-H6 のヘクスサイドに対する TEM 無しの即応射撃によって) 臨機射撃することができるようになる。7-4-7 が WA を主張しなかった場合、直ちに 4-6-7 が H6 で WA を獲得し (9.323)、前述の即応射撃を含めたあらゆる攻撃に対して (LOS による; A8.15、9.42) 石垣 TEM を適用できるようになる。



B

H7 の4-4-7 がI7 への進入を試みた。3-3-7 が露呈し、4-4-7 はH7 に押し戻される (A12.15)。この瞬間、4-4-7 は WA を失っており、3-3-7 が WA を主張すれば、4-4-7 に対して FFMO を適用して臨機射撃が可能となる。ただし、先んじて4-6-7 が H6 で WA を獲得していたならば、I7 で3-3-7 が WA を獲得することはできない。

●9.42 頂点に対する LOS: 迂回中 (VBM も含む) のユニットに対する LOS、および即応射撃に伴う LOS はヘクス頂点に対して (即応射撃の場合は該当ヘクスサイドの両端) 引かれる。その頂点が石垣/生け垣を構成するヘクスサイドの一部だった場合、以下の状況において LOS・TEM (あるいは HD 状態) に関して地形効果を発揮する。すなわち;

- LOS が該当する石垣/生け垣ヘクスサイドに正確に沿って引かれている (目標が頂点を構成する 3 ヘクスのうち、どれを占めているかにかかわらず)。
- 該当する石垣/生け垣ヘクスサイドを構成する 2 ヘクスのうち、目標が存在するヘクス (C.5) と対面するヘクス (ヘクスサイドを含む) を LOS が通過している。

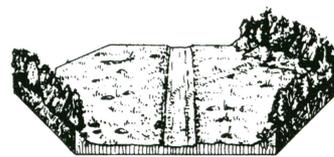
底面命中が適用される目標は、その目標頂点 (D4.3) を構成する 3 つのヘクスサイドの石垣/生け垣からは、いかなる TEM も受けることができない。



例：4-6-7 が急進歩移動を開始し、ヘクス 41Q4 を Q4-R4 ヘクスサイド沿いに迂回する。Q4-Q5-R4 の頂点に対する LOS に対し、Q4-R5 の生け垣が影響を与えるのは以下の場合である。Q4-R5 のヘクスサイド沿いに引かれた LOS (例えば、P4 からの) の場合。もしくは生け垣ヘクスサイドをはきで対面するヘクス、すなわち Q5 を通過する LOS (例えば、O5 もしくは WA を有していない Q5 から) の場合。O4 や R4 から Q4-Q5-R4 に対して引かれた LOS に、Q4-Q5 の生け垣は何の影響も与えない。

つづいて 4-6-7 は 2MF を消費し、Q5 に進入。Q4-Q5 のヘクスサイドを迂回する。これに対して、先ほどと同じ Q4-Q5-R4 の頂点に LOS を引くこともできるし、Q5-P4-Q4 に引くこともできる (A4.34)。前者の頂点に対しては、P4 からの LOS は今だ Q4-Q5 の生け垣の影響を受ける。加えて、いまや 4-6-7 はヘクス Q5 に存在している。したがって O4 からの LOS に対して (対面するヘクス Q4 を通過しての LOS であるがゆえに) Q4-Q5 の生け垣が影響を及ぼすようになり、逆に O5 もしくは Q5 からの LOS には影響しなくなっている。Q5-P4-Q4 の頂点に対して、R4 (生け垣ヘクスサイド沿いの LOS) や P3 (対面ヘクスを通過しての LOS) の LOS は生け垣の影響を受け、O3、O4、O5 からの LOS は Q4 を通過していないがゆえに影響を受けない。

4-6-7 はさらに P4 から O4 へと進入する。O4-P4 の生け垣ヘクスサイドに対して即応射撃が宣言された場合、その両端のヘクス頂点に対して (即応射撃の目標ヘクスサイドの一部として) LOS を引かねばならない。O5、もしくは P3 からの LOS (生け垣ヘクスサイド沿いの LOS) と、P5、Q3、Q4、Q5 からの LOS (即応射撃を受けた時点で、4-6-7 が存在するとみなされるヘクスは O4 である; A8.15。ゆえに、それに対面するヘクスである P4 を通過する LOS) は O4-P4 の生け垣の影響を受ける。N3、N4、O3、もしくは P2 からの LOS は影響を受けない。もし 4-6-7 が P4 から (O4 ではなく) P3 へと進入し、P3-P4 ヘクスサイドで即応射撃を受けたとすると、O4-P4 の生け垣の影響を受ける LOS は唯一、O5 からのもの (生け垣沿いの LOS) だけである。



9.5 ボカージュ (Bocage) : ボカージュ (あるいはヘッジロー: Hedgerow) は、低い盛土の上に植えられた特殊な形の生け垣であり、天然の障壁を成している。以下の変更点を除き、石垣に関する全てのルールをボカージュにも適用する [例外: HEAT は効果なし (C8.31)]。

9.51 ボカージュは、SSR に規定された場合に生け垣/石垣ヘクスサイドで表される。

9.52 LOS : ボカージュはやや特殊な 1 レベルの LOS 障害物である。ボカージュヘクスサイドの背後 (かつ、そのヘクスサイドの一部となっている区域) にいる防御側は、より高いレベルにいる射撃側の LOS 内にいることになるが、そのボカージュヘクスサイドを通る LOS に沿った次のヘクスは死角ヘクス (A6.4) になる。ボカージュヘ



B

クスサイドをその防御側のいるヘクスにある“1 階建て建物”として考えると、より高いレベルにいる視認側に対してどのように死角ヘクスが生じるかを理解するのが容易となる【例外：9.531】。

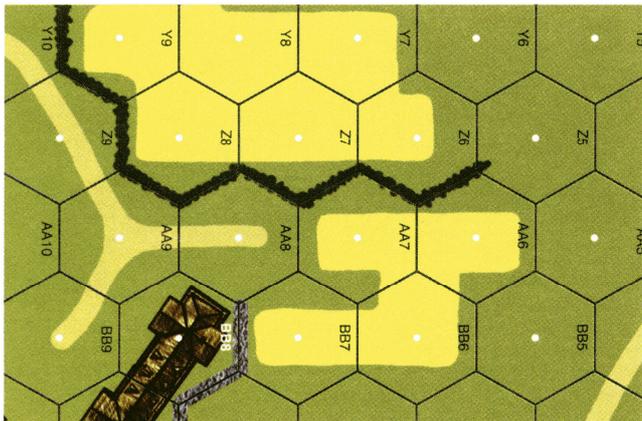
ポカージュヘクスの足に沿ってポカージュを通してLOSを引くことは、石垣の場合には可能であった(9.2)が、ポカージュの場合は不可能である。ポカージュのあるヘクスの足は、すべての点で通常の1 レベル障害物として扱われる。

●9.521 ヘクスサイド LOS : LOS はポカージュヘクスサイドを通過し、そのヘクスサイドを構成するヘクスへと引くことができる。しかし、何を見ることができるかは、視認者の状況によって異なる。

・視認者がポカージュヘクスサイドに対して WA を有しており、そのヘクスサイドを通してLOSを引く場合 : LOSはポカージュヘクスサイドを通過し、そのさらに遠方のヘクスまで自由に延ばすことができる。

・視認者がポカージュヘクスサイドを構成するヘクス内にいるが、WAを有していない場合 : ポカージュヘクスサイドを通して、隣接するヘクスまで見ることができる。より遠方へはLOSを延ばせない。ただし、その隣接ヘクス内にあるものであれば、WAの有無にかかわらず見ることができる。

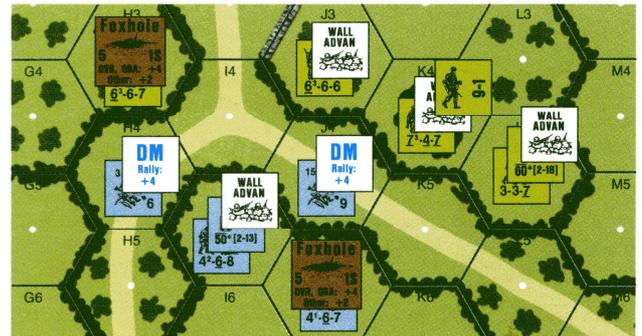
・視認者がポカージュヘクスサイドを構成するヘクス内にいない場合 : ポカージュヘクスサイドを通して、そのヘクスサイドを構成するヘクスまで見ることができる。より遠方へはLOSを延ばせない。さらに、そのヘクス内にあるユニット(およびそのユニットが所有している装備)のうち、WAを有していないものを見ることはできない。ただし、そのヘクスそのものは見ることができる。



例 : すべての生け垣はポカージュである。44BB8にいるユニットは、Z6・Z7・Z8を見ることができる(より遠くへはLOSを延ばせない)。A12.33にしたがい、それらのヘクス内にあるHIPカウンターも露呈させることができる。ただし、それらのヘクスでWAを有していないユニットを見ることはできない。また、Z5はヘクスそのものも見ることができない。

BB8に屋上があると仮定すると、そこに存在するユニットは高度レベル11/2に存在する。そのユニットはポカージュを越えてX列のヘクスを見ることができるが、Y7~Y9までのヘクスは死角となるために見ることができない(9.52 ; LOSに対して、Z6~Z8にはあたかも1階建ての建物が存在するかのように扱う)。Z5もZ6・AA6のヘクスサイドが死角を作る(9.52)ために見ることができない。しかし、Y5・Z4のヘクスサイドを即応射撃の対象にすることは可能である。

BB8にレベル3が存在した場合、そこからならY6~Y9を見ることができる(9.531)。しかしながら、Z5、あるいはZ6~Z8でWAを有していないユニットを見ることは依然として不可能である。AA8にいるユニットはZ7とZ8を見ることができ、WAを有しているならさらに遠方のY6・Y7・Y8・Y9も見ることができる。しかし、Z6やZ9を見ることができない。通常の生け垣と異なり、ポカージュヘクスサイドに沿ったLOSは遮断されているからである(ゆえに、AA8からZ9-AA9のヘクスサイドに対する即応射撃は不可能となる)。



例 : すべての生け垣はポカージュである。

- 54I5の4-6-8はすべてのアメリカ軍が存在する区域を(単独壕そのものも含めて)見ることができる。しかし、9-1 指揮官と単独壕内の6-6-7は見ることができない。また、さらに遠方のK3やL3といったヘクスも見ることができない。ゆえに、6-6-7と9-1に対し、直接射撃で攻撃することはできない。MTRによる攻撃でも、H3の6-6-7に命中を与えることはできない。しかし、K4の9-1に対しては同じ区域の7-4-7に対して命中を与えることで命中させることができる(C3.33)。
- J5の4-6-7は、いかなるアメリカ軍区域も見ることができない。
- H4の混乱した2-3-7は隣接しているためにH3の6-6-7を見ることができ、またWAを有しているJ3とK4のユニットも見ることができる。
- J4の混乱した6-5-8は、J3とK4の全ユニットを見ることができる。
- H3の単独壕内の6-6-7は、唯一隣接した2-3-7だけを見ることができる。
- 6-6-7と7-4-7は、すべてのドイツ軍区域を見ることができる。しかし、単独壕内の4-6-7を見ることはできない。
- K4の9-1 指揮官は、隣接した混乱6-5-8しか見ることができない。ゆえに、他のドイツ軍ユニットに7-4-7が攻撃する際、それを指揮することができない。ただし、この7-4-7がドイツ軍ユニットから攻撃を受け、MCやTCを行うことになった場合、そのドイツ軍ユニットが9-1から見えていなかったとしても(例えば4-6-8)、そのMC/TCを指揮することができる。
- L4の3-3-7は、4-6-8を見ることができるが、他のすべてのドイツ軍ユニットを見ることができない。J5の区域を見ることができるが、4-6-7は単独壕の中なので見ることができないのである。ゆえに、J5をMTRで射撃したとしても、非隠匿ユニットにLOSが無いためにこの4-6-7に命中を与えることはできない(C3.33)。ただし、この区域に対してWPを発射したなら(命中には事例Kの+2が適用される ; C6.2)、命中した場合には4-6-7もWPによって生じるNMCを行わねばならない。なぜなら、WPがおかれた区域に存在するあらゆるユニットがWP-NMCの対象となるからである(A24.31)。

9.53 非車載で直接射撃する砲は、1回の射撃フェイズに、CAの変更とポカージュヘクスサイドを通しての射撃の両方を行う事はできない(防衛臨機射撃と最終射撃は2つで1フェイズと数える ; A.15)。

9.531 高度の影響(9.33)はポカージュのTEMに何の影響も与えない。ただし、A6.42に従い、ポカージュによって形成され得る死角ヘクスの数を0まで減少し得る。

9.54 移動 : 歩兵がポカージュヘクスサイドを横断する場合、2MFプラスCOTの消費が必要である。歩兵以外のユニットのうち、ポカージュヘクスサイドを横断できるのは、完全装軌型AFVだけである。ポカージュヘクスサイドを横断するAFVは、後進移動/跨乗兵の輸送を行えない。また、AFVがポカージュヘクスサイドを横断する場合、底面命中の対象となり、シウルツェンを喪失(D11.2)、ボグ(退出しようとしたヘクスで)の可能性がある【上記の全てに関する例外 : 明確に分断された間隙(9.4)や突破口を通して横断する場合 ; 9.541】。



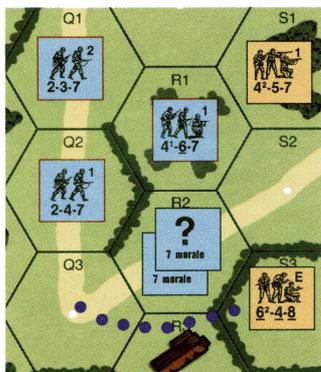
9.541 突破口(Breach) : ドーザータンク、ブルドーザー、および、SSRによって生け垣切断機(キュリン式ヘッジカッター)やこれと同種の装備(1944年7月25日以降)を有していると規定されたAFVは、それが通過するヘッジローに突破口を開ける。そのヘクスサイドを横断するのに全許容MP【例外 : 始動MP】を消費してボグDRに成功すれば、突破口を開けたと見なされる。ボグDRに失敗した場合、その車両は作業を開始したヘクスでボグ状態となり、そのポカージュは変化しない。後進によってヘッジローに突破口を開けることはできないが、突破口を開ける際の車両は底面命中の対象にならない。突破口の開いたヘクスサイドに、矢印をそのヘクスサイドに向くように、突破口(Breach)カウンターを置いて示す。これ以降、そのヘクスサイドを横断する移動/人力移動(C10.3)は、開路地で行われるものとして扱われる。突破口がポカージュのルールに与える変更点はこれで全部である。



9.55 隠蔽 : すべての敵(A12.1にしたがって統制状態/非混乱状態の)地上ユニットのLOSに対して、ポカージュTEMの主張が可能な歩兵/ダミーユニットは、初期配置と“?”の獲得に関して、すべての敵からのLOS外でかつ隠蔽地形にいるとみなされる。そのようなユニットは、RPh中の“?”の喪失判定に関してはすべての敵ユニットからのLOS外にあるとみなされ、MPh中の“?”喪失判定においては警戒移動をしているものとみなされる。両陣営の初期配置を終えてプレイが開始される前の時点で、ポカージュヘクスサイドを含む区域であるという理由だけでHIP/“?”状態で配置されたユニットに対し、統制状態の敵ユニットからポカージュを通さないLOSが存在する場合、それらのHIP/“?”は喪失する。プレイが開始されたら、ポカージュヘクスサイドの背後であるという理由だけでHIP状態で配置されたユニットに対し、統制状態の敵ユニットからポカージュの影響を受けないLOSが存在する場合、そのHIPユニットは直ちに隠蔽状態で盤上に配置される。



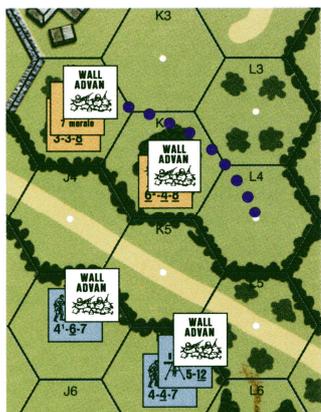
例：すべての生け垣はポカージュである。SSRにより、先に初期配置するドイツ軍には2個分隊相当のHIPが認められている。彼は1個分隊を55R1に、2個のHSをそれぞれQ1とQ2に隠匿配置した(赤い輪郭線で示す)。非隠蔽地形であるが、1つ以上のポカージュヘクスサイドを含んでいるからである。彼はまた、OBで与えられた2個の“?”を用い、ダミーを作ってR2に配置した。ここも隠蔽地形ではないが、ポカージュを含んでいるためにダミーの配置が可能となる。



イギリス軍はS1に4-5-7を配置した。ここからはQ1とR2にポカージュを通さないLOSを引くことができるため、イギリス軍が配置を完了した時点でQ1の2-3-7は非隠蔽状態で盤上に置かれ、R2のダミーは除去される。R1の隠匿が維持されるのは、そこが果樹園であり、ポカージュと関係なく隠蔽地形だからである。

イギリス軍のMPHにおいて、6-2-8がQ3に移動した。その時点でQ2の2-3-7は隠蔽状態で盤上に置かれる。

例：すべての生け垣はポカージュである。イギリス軍のPPPhに54K5の6-4-8がJ5の4-6-7に対して射撃を行い、これを混乱させた。混乱状態のユニットだけでは、たとえ他の状況が強制的WAの適用される状態(9.323)だったとしてもWAを主張することはできない(9.32)。ゆえに4-6-7はWAを失い、両方のイギリス軍ユニットのLOS外となり、これ以降攻撃を受けることはなくなる。



イギリス軍のMPHにおいて、隠蔽状態の3-3-8が非警戒移動でK4に進入した。そこでは林からのTEMを受けるのでWAを主張する必要がなく、WAを主張しなければK6の4-4-7のLOS外である。さらに3-3-8はL4へと進入する。そこは強制的WA

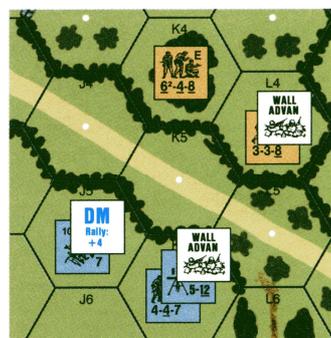
(9.323)が適用されるためにWAを主張せねばならず、4-4-7のLOS内となる。しかし、隠蔽は維持される。“?”の喪失に関しては、警戒移動と同様に扱われる(9.55)ためである。

同様に、3-3-8がL4内で単独壕からの出入りやクレスト状態の変更など、警戒移動ならば隠蔽が喪失しないような行動を行ったとしても、隠蔽は維持される。しかし、A12.141にしたがって、警戒移動であっても隠蔽が喪失する行動(例えば、DCの配置を行ったなら、隠蔽は喪失する。L4に進入した時点で、4-4-7とMMGが4FP(9FPが隠蔽で半減)で臨機射撃攻撃を行った。DRMは+2(+2[ポカージュTEM]+1[果樹園の妨害]-1[FFNAM])であり、DRの結果効果はなかったがROFは維持された。たとえROFが維持されなかったとしても、残留火力は残らない。ポカージュTEM+2と果樹園の妨害+1で、3段階の残留火力減衰が生じるためである。

仮に、L5にWAを有しているドイツ軍2-3-7HSがいたとしよう。この場合、3-3-8はL4でWAを主張できなくなる。WAはヘクスサイドごとではなくヘクスごとの主張であるため(例外：デラックスASL)、2-3-7がL4-L5のヘクスサイドのWAを主張しているだけで、3-3-8はL4のあらゆるヘクスサイドのWAを主張できなくなるのである。この場合、2-3-7HSからのLOSにはポカージュが影響しないため、3-3-8が隠蔽を失い、2-3-7からの臨機射撃にはFFMOが適用される。しかしK6の4-4-7のLOS外となるため、ここから攻撃を受けることはない。

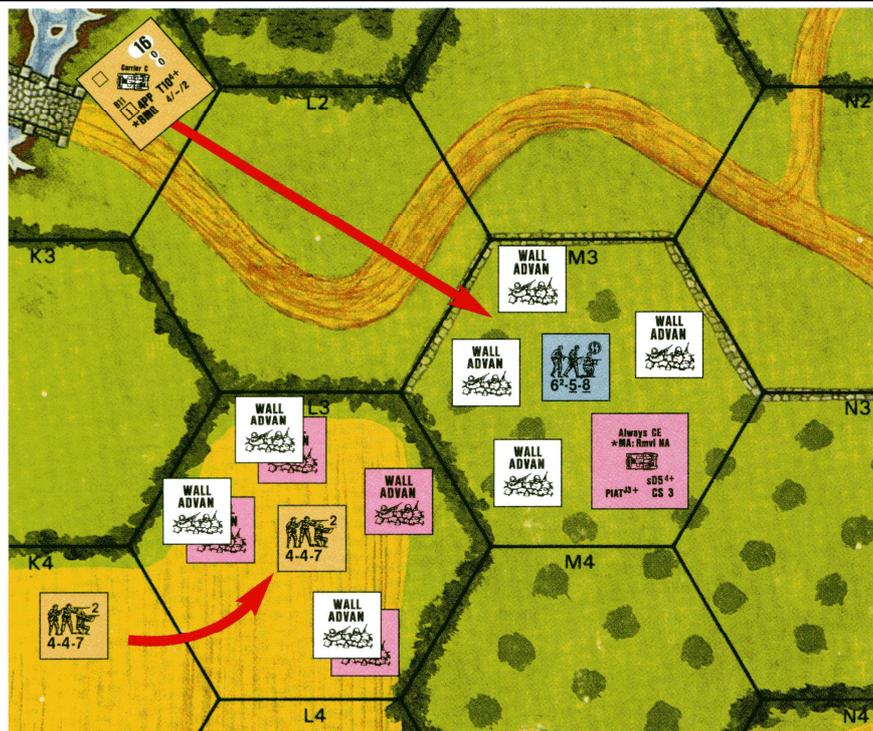
ドイツ軍のDFPh開始時である。6-4-8はWAを喪失し(これは射撃の後のいつでも可能であった；9.322)、これによって4-4-7のLOS外となった。3-3-8はWAを喪失することはできない。4-4-7はMMGのROFで隠蔽状態の3-3-8を射撃し、その結果PTCとなって隠蔽を喪失させた(PTCには成功した)。

右の図はイギリス軍のAph開始時の状況である。Aphにおいて、6-4-8はWAを主張した(WAを主張できる最も早い機会である；9.322)。イギリス軍CCPhの終了時に、両方のイギリス軍ユニットが“?”を獲得できる。なぜなら、ポカージュヘクスサイドの効果により、すべての敵ユニットのLOS外にあるとみなされる(9.55)ためである。



ドイツ軍プレイヤーターンである。4-6-7は自己回復に成功し、その瞬間に強制的WA(9.323)によってWAを獲得する。6-4-8はドイツ軍の準備射撃を避けるため、再びWAを喪失した。

ドイツ軍のMPHに、4-6-7は警戒移動でK5に進入する。が、L4の3-3-8がWAを有しているためにここでWAを主張することはできない。6-4-8も、この時点ではWAを主張できないため、4-6-7への臨機射撃にはポカージュの+2TEMが適用される。3-3-8が行う臨機射撃にはFFMOが適用される。6-4-8と3-3-8がFGを作ったなら、ポカージュの+2TEMが適用され、FFMOは適用されない。



例：すべての生け垣はポカージュであり、デラックスASLのルールが適用されている。この例において、白いWAカウンターはイギリス軍4-4-7分隊の異動後の状況であり、ピンクのWAカウンター(および残骸)はイギリス軍MPHの終了時点での状況を表している。イギリス軍MPH開始時に、gM3のドイツ軍6-5-8分隊は4つの石垣/ポカージュヘクスサイドのすべてに対してWAを確保している。

イギリス軍4-4-7分隊がL3に進入し、L3-M4、L3-L2、L3-K3の3つのヘクスサイドのWAを確保した。L3-M3のヘクスサイドはドイツ軍分隊にWAを保持されている。L3-M3のポカージュに対してWAを持っていないため、4-4-7はこのヘクスサイドを通して隣接していないヘクスに対してLOSを引くことができない。このポカージュの頂点を通したLOS(例えば、M2、N2、N3に対するLOS)も同様に遮断される(9.521)。

イギリス軍のキャリアーが、L2からM3へと進入した。この時点で、ドイツ軍分隊は武装した敵と同じ区域を占めることになるために、あらゆるWAを即座に喪失する(9.32)。すべての敵WAが喪失したために、イギリス軍の4-4-7はL3-M3のポカージュに対するWAを即座に自動的に獲得する(9.323)。

ドイツ軍はCC対応射撃でキャリアーを撃破した。その時点で即座にM3-L2、M3-M2、M3-N2の各ヘクスサイドのWAを確保する(9.323)。もしM3にヘクス内TEMがあったなら、6-5-8のWA再獲得は、少なくとも次のRPhまで不可能となる(9.322)。DFPhにおいて6-5-8からのFinalFireにより4-4-7が混乱したら、4-4-7は即座にWAを失い、6-5-8は9.32および9.323にしたがって自動的にL3-M3のWAを確保する(あるいは、M3にヘクス内TEMがあるなら、WAの確保を主張できる)。